

学校法人 滋慶学園 福岡ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【令和元年5月20日実施】

平成30年度自己点検自己評価(平成30年4月1日～平成31年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	学校関係者評価委員評価点	学校関係者評価委員よりの御意見
		極めて優れている…5 優れている…4 適切…3 若干改善が必要…2 根本的改善が必要…1			極めて優れている…5 優れている…4 適切…3 若干改善が必要…2 根本的改善が必要…1	
1 的・教育 成人材 人・目 像	1 理念・目的・育人人材像	5	学校の将来を組織運営面と教育＝人材育成面の両視点から捉えている。常に5年先を見据えて事業計画を立てて実行しており、将来構想を明文化し運営している。	常に業界とのコミュニケーションを図り、業界から遊離せず産学協同での教育を心がけている。	平均評価 5	・滋慶学園という大きな学校法人ならではの理念を周知し、今までどおり人材となる若者の育成に期待します。 ・近隣関係者として合同入学式に出席しました。 ・明確な目標と志を持った生徒にハイレベルな環境とサポートで答える学校に感動しました。 ・専門職人材を作るという事に対する非常に思いが強いと感じました。 ・将来を見据えた事業計画をたてることは最も経営上大切なことであるが、十分に考えられていると思われる。 ・内部ではなく外部を積極的に入れているので素晴らしいと思います。
	2 運営方針	5	法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を定めている。明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人が周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。それは、各種の研修(教職員・講師)、会議(運営会議・学科会議・課別会議等)で行い、全教員が納得して学校運営に携わる環境作りをしている。このことが、学校・学科の教育成果に繋がっていると考えている。常に市場ニーズに対応した事業計画・運営方針をこれからも作成するように努める。	学校運営をマネジメントシステムの準備(計画)と実行として捉え、マネジメントスキル、知識、そしてリーダーとしての研修を重視している。マネージャーは組織運営者であることを前提としている。	平均評価 4.9	・学校運営の中で、計画・方針等が常勤と非常勤の講師内で内容の伝達は上手く行き届いていないと感じることがあります。多忙の中で難しいことがあるかと思いますが、共有・確認・再確認を各学科ごとのリーダー、マネージャーで徹底することでよりスムーズに学校運営をすることができるのではないかと思えます。 ・1年、2年とどちらも子供がお世話になっているからこそ昨年と違うことがわかり、毎年同じことを繰り返すのではなく、常に適切なカリキュラムを考えてらっしゃるのだと思いました。 ・運営方針や事業計画を全職員間で共有して徹底していく姿勢が十分にうかがえる。 また講師を含めた全職員を対象とした研修を充実させていることは大変素晴らしいと思う。十分な研修と業務の効率化が進路保障の充実につながっていると思われる。 ・東京校への体験などなのは稀なのだと思います。 ・事業計画は素晴らしいが分かりづらいものでもあると思います。 ・結果だけでなく課程を行動で評価されているのが素晴らしい。 ・情報システムは素晴らしい。
3 事業計画	5	法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を作成している。事業計画を立てること、運営方針を定めることは、常に同時に考え、実践している。明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人が周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。	事業計画を教職員が自立的に計画し決定し全員で共有する。その上で職場運営が実行に移される。その運営のチェック機能として ①学園の常務会議 ②学校ごとの戦略会議(運営責任者会議)、 ③運営会議(学科責任者会議)、 ④学科会議、部署会議があり、計画遂行の確認をする。 問題点を早期に発見し、対策を立て、実行するプロセスを確立している。			
4 運営組織	5	意思決定に関しては、重要事項の優先順位と対応する機関が明確である。毎年事業計画策定という敷しい作業があることで、目標志向性の高い組織運営が行われている。	会議については下記2点を重視している。 ①会議の進行ルール ②議題発信と議事録配布・保管のルール また、会議についての研修を実施している。			
2 学校 運営	5 人事・給与制度	5	採用計画と人材育成のための研修は、システムとして確立され、有効に機能している。採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や、採用試験を実施している。採用は採用基準の基、厳正に実施している。また、その後の教職員の育成には、もっとも力を入れている。そして、目標管理制度に基づき、成果に応じた人事や賃金決定が行われている。	数字目標を達成する過程の業務や、数字だけでは評価できない業務も過程を評価できるようプロセス評価を導入している。目標は常に、健全な学校運営、学科運営を実現できているかの視点で立て、評価も公平に行い、学校・学科の成長と教職員の成長に結びつくようにしている。 また、職員の職場に関するアンケートも実施。理念、目標の理解度や、職場満足度、各自の希望などの項目でアンケートを取り、その結果を受けての、職場環境の改善にも着手している。		
	6 意思決定システム	5	法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を定めている。明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人が周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。それは、各種の研修(教職員・講師)、会議(運営会議・学科会議・課別会議等)で行い、全教員が納得して学校運営に携わる環境作りをしている。このことが、学校・学科の教育成果に繋がっていると考えている。常に市場ニーズに対応した事業計画・運営方針をこれからも作成するように努める。	会議は、 1. 法人理事会・評議員会 最高議決機関 2. 学校戦略会議 運営方針の起案会議 3. 法人学校運営会議 運営方針の問題を発見・対策立て会議 4. 運営会議 学校の目標達成に向け、発生する問題解決会議 5. 学校全体会議 決定事項の周知 6. 学校学科会議・部署会議 部署の問題解決会議 7. グループ各委員会会議 広報委員会・総務人事委員会・就職委員会・国家試験対策委員会・広告倫理委員会・個人情報保護委員会・学科別教育研究委員会・災害対策委員会・カウンセリング委員会・キャリア教育委員会 8. 他、様々なプロジェクト会議がある。		
7 情報システム	4	個別ごとのセクションの情報システム化、その結果としての業務の効率化は推進されていると考えている。それは、業務のマニュアル化とシステム化が推進されたことと、法人内のコンピュータ関連会社の協力で、情報の一元化に成果が現れてきたことによるものである。また、業務の効率化により、教職員が直接学生と接する時間を多くすることが可能になった。	特に、学生の教育・就職・学費入金等、学生に関わる情報処理についてはすべて一元化された運営を行っており、学生情報にプレがないようにシステム構築をしている。そのことが、退学防止、就職支援へとつながっている。			

学校法人 滋慶学園 福岡ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【令和元年5月20日実施】

平成30年度自己点検自己評価(平成30年4月1日～平成31年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	学校関係者評価委員評価点	学校関係者評価委員よりの御意見
		極めて優れている…5 優れている…4 適切…3 若干改善が必要…2 根本的改善が必要…1			極めて優れている…5 優れている…4 適切…3 若干改善が必要…2 根本的改善が必要…1	
3 教育活動	8 目標の設定	5	教育指導要領、学生便覧において、教育編成の方針、教育到達レベルについては明示されている。資格に対する指導、支援体制も明確になっており、現状、この項目についての課題は無い状況である。		平均評価 4.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格は取得が目的ではなく取得後どう活用するのかが重要。国家資格やその他の資格活用は1つだけでなく、他の事例も在校中に伝えることが重要である。</li> <li>・美容の学校を卒業し、他業界ではなく美容業界で活躍する人材を育成していただきたい。活用方法を伝えることで生徒の資格取得もモチベーションUPに繋がる。</li> <li>・卒業生代表の評価も高かった。</li> <li>・PDCAが高いモチベーションで行っている(フォロー・サポート・カウンセリングなど)</li> <li>・資格の項目の多さや内容も充実されており感心しました。</li> <li>・私が学生のときと比べると教育環境はかなり整っていると感じます。現在たくさん協会資格がある中で、JMAの資格取得は美容業界で広く知られている資格だと思います。JESCO取得後の更なるステップアップとして再度取り入れてもいいのでは？と思います。</li> <li>・専門学校での最も十分な点である資格取得のための活動体制は整っていると思われる。就職状況をみても良好であることが十分にうかがうことができる。</li> </ul>
	9 教育方法・評価等	5	滋慶教育科学研究所(JESCO)にて、教育課程作成方法、授業改善に取り組んで来ている。多様化する学生に対して、より精度の高い、幅広いカリキュラム構築が今後必要になる。			
	10 成績評価・単位認定等	5	毎年、学生便覧掲載内容、学則施行細則の見直しを行っており、単位認定、成績評価については入学前、入学直後のオリエンテーションや初年次教育において、詳細な説明を実施している。また成績評価、単位認定の基準に未到達が予測される学生への、補習・特別授業、カウンセリングも早期に実施し、全ての学生が卒業できる体制作りを実施している			
	11 資格・免許取得の指導体制	4	各学科で資格取得の目標を達成するために、対策を立て、実行している。学園全体で国家試験対策センターを設置しており、1年に数回の、資格対策研修会・勉強会に、全教員が参加して、資格合格に向けての指導方法・指導体制について勉強し改善を図っている	模擬試験や特別対策講座を各資格で取り入れている。		
	12 教員・教員組織	5	教員・資格・研修については、制度・内容も充実した体制をとっている。校務分掌による、常勤にスムーズな学校運用はもちろん、非常勤教員との情報共有や教授力の向上については、様々な取り組みを行っている			
4 学修成果	13 就職率	4	いわゆる就職率(就職決定者/就職希望者)100%を長期にわたって達成している。そこで、現在は更に目標を高めて、専門就職率(学科の専門性を活かした仕事へ就職した率)、就職者率(就職者数/卒業生数)の2つの数字を高め、卒業後離職率(卒業後1年目の退職率)を低くするという目標として取り組んでいる。また、専門就職率を常に高めるということを目標に掲げた就職支援は、「キャリアセンター、教務、学生(保護者)の三位一体の就職支援」で、現在、専門就職率は100%をキープ。この数字以下にならないように、今後も努める	キャリアセンター…就職に関する相談室を「キャリアセンター」という名称で設置している。 キャリアセンターの目的は ①入学希望者に卒業後の就職イメージを持ってもらう入学希望者には、具体的な仕事の内容を理解してもらい、安心して学校を選んでもらえるようにする。 ②在校生に対しての就職支援在校生には面接時におけるスキルアップ指導や、現場実習等をサポートし、プロ意識を養い育てていく。 ③同窓生(卒業生)のキャリアアップ支援	平均評価 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生の社会的評価について、現状離職率での評価をしているが社会的評価は現職の評価も必要なので主要な就職先へのヒアリングも追加し評価に加えると良い。</li> <li>・高い就職率(100%)には驚きました。</li> <li>・離職率も少なくなっている。</li> <li>・就職より転職先での動向(内容)も知りたいとの声もありました。</li> <li>・卒業生の社会的評価について離職率の部分で減少させていくには卒業後の生徒のフォローアップ、離職した生徒へのカウンセリング(理由を聞き出す)が重要ではないかと思えます。その内容を元にしながら在校生への就職案内をすることでよりその生徒に合った職場をすすめることができ、離職率の減少につながるのではと考えます。</li> <li>・就職100%キープはとても素晴らしいことだと思います。でも中にはとやみかみ就職する人や自分の中でやりたいことが明確じゃないまま就職する人もいます。もう少しみんなが行きたい職場で働けるとも嬉しいのかなと思えます。そうすることで長く働ける人も増え、辞める人も少なくなるのかなと。そのためにはキャリアセンターや担任の先生はもちろん、生徒が他の先生方へも相談できる関係性があればもっと情報共有できていいと思います。</li> <li>・高校生も同様であるが、早期の離職には十分に気を配る必要がある。年々減少傾向にあることは評価に値するのでより減少していくことが期待できる。</li> </ul>
	14 資格・免許の取得率	4	カリキュラムの見直しはもとより、日々の学生の理解度向上のため教育プログラムの構築に努めている			
	15 卒業生の社会的評価	3	卒業後1年目の勤務状況調査を毎年実施しており、平成26年度の調査(平成26年3月卒対象)では、学校全体で25.3%であった離職率が、平成27年度の調査(平成27年3月卒対象)では21.5%、平成28年度(平成28年3月卒対象)では17.7%と年々減少傾向にある。			

学校法人 滋慶学園 福岡ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【令和元年5月20日実施】

平成30年度自己点検自己評価(平成30年4月1日～平成31年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	学校関係者評価委員評価点	学校関係者評価委員よりの御意見
		極めて優れている…5 優れている…4 適切…3 若干改善が必要…2 根本的改善が必要…1			極めて優れている…5 優れている…4 適切…3 若干改善が必要…2 根本的改善が必要…1	
5 学生支援	16 就職進路	4	開校以来、専門就職と内定100%に向けての就職支援・指導の徹底を教職員一丸となって取り組んでいる。就職支援・指導のため、開校以来教務部だけでなく、キャリアセンターを設け、求人票の獲得や、学生の内定を勝ち取るためのシステムを構築している。	【学内企業説明会の実施】 企業の採用時期に合わせて開催し、学校に採用の担当者をお呼びし、面接試験などを行ってもらう。 【履歴書作成+面接指導】 自己PRと志望動機について、学生と相談しながらより魅力的な内容となるよう、徹底指導を実施。また面接本番に向け、学生は職員から面接指導を受けることを基本的に義務化している。そして、面接指導をした職員は、各学生のウィークポイント克服に向けて、他の職員に情報を共有し次の面接練習に活かす工夫をしている。	平均評価 4.3	・中途退学が少ない理由として学生コミュニケーション相談でのサポートで効果がでていと感じられる。 ・保護者との連携でPTAや後援会等の活動(学園祭等)も協力を要請することもできるのではないかと ・OGOBとのつながりとして「キャリアマップ」等の外部システムを活用する方法もある。また、卒業生・同窓会をどのように運営するかも課題。 卒業後スキルアップセミナーでOGOBとサロン・在校生をつなぐシステムは必要。 ・大浜地区には多くの滋慶学園関係施設が有り、様々な支援・協力、応援がなされている。 ・学生にとって大きな問題になり得る精神面や学費、健康面などに対応できる環境に安心して信頼していると思えました。 ・学生支援に関しては教員の皆様全体で一生涯態取り組んで実感しております。 ・只時代と共に教育環境が変わるにもないいろいろな価値観を持った生徒が以前より増えてきて各々に対応するのが難しい現状かと思えます。 ・通年の課題にはなりますが、専門学校の2年間の内容で卒業後の生徒の社会的評価等につながらないと思っております。 ・先日の会議で卒業生に対する対応が不十分だという意見が先生方から出ましたが、卒業生の支援は難しくあまり力を入れなくても良いのでは？ ・経済面での学生支援も大変重要になってきていると思われるが、多様な学生が入学してきているのでメンタルサポートにもさらに力を入れていただけることを期待している。
	17 中途退学への対応	4	専門学校の退学者率の水準が一般に10%と言われている中で、本校の低減度合は高いレベルにあると思われる。ひとり一人の学生に合わせた支援体制が構築されつつあるが、入学生の変化に柔軟に対応できる体制が求められる。	基礎学力不足の学生向けの補習や、学生ひとり一人の相談にのれるよう定期的なカウンセリングなどに力を注いでいる。		
	18 学生相談	5	JTSCを設置し、①精神面②学費③健康面などの相談をいつでも受け入れる体制が既に整備され、有効的に機能している。全教職員が「JESCC教員カウンセラー資格」を取得し、学生の問題早期発見に結びついている。また、毎年行うサポートセンターも問題発見に大きく貢献している。相談内容、相談件数等の分析をし、カウンセラー自身が担任研修を行うなどの取り組みも行っている。	全教職員が、カウンセリングマインドを持ち学生支援を行えるよう学園内組織(滋慶教育科学研究所)が主催する「JESCC教員カウンセラー資格」を取得しカウンセリング技術の統一を図っている。心理学・カウンセリング基礎知識の習得のより学生相談室との連携がスムーズになっている。 今後留學生向けの学科も設置するため、現行の各部署のサポートに加え、専門かつ総合的に支援できる留學生支援センターを設置する。		
	19 学生生活	5	様々な側面からサポートを必要とする学生が多く、学校もそれに充分対応えられるよう学園およびサポート企業のスケールメリットを生かした体制を作っている。その中でも特に学費サポートのニーズは高く、学園内専門の教育を受けたフィナンシャルアドバイザーを常駐させている。			
	20 保護者との連携	4	入学から資格取得、就職、卒業に至るまで保護者の協力は重要と考えており、入学時から保護者連携の体制を確立している。各保護者会には多くの保護者の参加があり教育に関する関心が高く個別相談希望者が多い。			
	21 卒業生・社会人	3	想定される様々な事案での支援策を講じている。成功例、失敗例をケーススタディとし職員研修で役立っている。担任自身が解決できない問題は速やかに担当部署や担当者との連携を取るシステムが出来上がっている。			
6 教育環境	22 施設・設備等	5	実習授業に力を入れている本校にとって、学内実習室が実際の現場で使われている設備を揃えていることが、必要不可欠である。実践教育のための学内施設、設備はかなり高いレベルで整備されていると考えている。各教室、実習室は、各種の申請に必要な条件を全て満たす環境として、認可を得ている。ICT教育設備の充実にもチャレンジしていく。		平均評価 4.5	・防災に関して良い意見が他の委員の方から出ている。 女子生徒が多いので外部の侵入、セキュリティを引き続き強化していただきたい。 ・カメラの増設はいいことです。大浜防犯推進協議会委員長としては防犯カメラの有効性は大きいと思います。 ・校外でも学生が安心して登下校できるように動きます。 ・校内の防犯カメラの増設も大事だが、校内に入るまでの防犯カメラの方が必要では。(学校の周辺など) ・防災について会議でも話し合ったように地域とより連携をとりあっていくことが今後必要ではないかと思えます。 ・学外実習(企業コラボ等)かなり充実していると思えます。 ・インターンシップで来てくれているベルの学生さんはみなさん頑張りでとても助かっています。でももっとここができればいいな！と思うことがあり、雑誌をお客様の席に持っていき際の雑誌の選定が若すぎたり、年代が上の人が読むような雑誌をもってきたりすることです。特に男の子は分からなかったりするのではないのでしょうか。授業でしっかり教えずとも、雑誌にふれる事、勉強できる機会があればいいなと思えます。 ・実習室をはじめとした学内の施設・設備は整っていると思う。また安全対策も十分にできているのではないかと思う。
	23 学外実習、インターンシップ等	4	学外実習や海外研修を行うことは、学園の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」の全てと関わることになり、その教育効果は大きいものと考えている。			
	24 防災・安全管理	4	防災、火災訓練を実施し、学生、教職員、講師へ避難手順や対応方法を指示し実施している。また、救急時における知識の習得と意識付けは出来ている。 安全管理委員長の元、安全管理委員会を実施し、安全管理に努めている。 また防犯対策として、防犯カメラの増設設置を行った。	防災訓練の映像化(DVD)がされており、学生・教職員・講師全員が視聴し、防災の意識を高めている。 【AEDの校舎設置】 校舎入り口付近に自動体外式除動器(AED)計1台を設置している。月に一度自動体外式除動器(AED)の点検をしている。また教職員には、使用方法の講習済みである。 教職員向けに心肺蘇生法の講習を定期的実施している。		

学校法人 滋慶学園 福岡ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【令和元年5月20日実施】

平成30年度自己点検自己評価(平成30年4月1日～平成31年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	学校関係者評価委員評価点	
		極めて優れている…5 優れている…4 適切…3 若干改善が必要…2 根本的改善が必要…1				極めて優れている…5 優れている…4 適切…3 若干改善が必要…2 根本的改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
7 学生 の 募 集 と 受 け 入	25 学生募集活動	5		学生募集活動は、学内に個人情報保護委員会を組織し、プライバシーの保護に配慮しながら、学則をもとに、その年の入学案内、募集要項の通り、適正に行われていると考えている。	学校として、学生募集活動を入学前教育と位置づけしており、受験生の①職業適性の発見・開発②目的意識の開発の支援をしていく重要なプログラムであると考えている。	平均評価 4.9	・高校の専門学校に対する評価の低さを変える必要があります。 ・募集活動及び選考についても定められたルールに基づき適正に行われていると思われる。
	26 入学選考	5		福岡県専修学校各種学校協会との定めによるルール、及び学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしている。	将来の希望分野への適性を見極めるため、面接の比重を多くしている。結果として、学力のみにとらわれない、モチベーションの高い学生確保に役立っている		
	27 学納金	5		学納金は適正かつ妥当なものと考えている。また、財務の情報公開も私立学校法の改正の義務づけに合わせて、本校でも平成17年4月1日から法人単位での公開の体制を取っている。学納金が公正に使われているかを世に問うものとなっている。経済的困難な家庭も増えているため、学納金は注目される件である。無駄な要素がないよう教材や講師の選定、授業運営は慎重に行っている。	入学以前の募集要項上において、事前に年間必要額を明示しているため、保護者に関しては年間支出計画が立てやすい。また、高等学校在学者に対しても、日本学生支援機構の予約採用のアナウンスや教育ローンの案内をするなど、学費負担者の立場にたったのアドバイスを実施している。		
8 財 務	28 財務基盤	5		将来の安定した財務基盤が保てるよう、毎年5か年の予算を組んでいる。これにより中長期的視点で、予算を管理することができている。	キャッシュフローを重視した運営をしている。また、単年度の予算を綿密に作成している。指揮命令の系統が明確になっており、内部承認体制が確立されている。	平均評価 4.7	・中長期視点から予算計画をたてておられることは生徒を送り出す側の立場としては安心感をもつことができるので毎年見直しをしながら続けていただきたい。
	29 予算・収支計画	5		予算編成の方法については短期的と中長期的に行っているのが適切な方法と考えている。5年を見越した中長期的事業計画を毎年立てる中で収支計画を作成しているが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするためにより現実に即した予算編成になっているものと考えている。	予算を立てるだけでなく一年の流れの中で随時見直しをしている。それにより収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっている点が特徴として挙げられる。		
	30 監査	5		現在のところ、監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の意見が述べられており、適正な計算書類を作成していると考えている。監査を有効に実施してもらうために、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。	私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けているが、それに加えて、補助金対象ではない当学校において「公認会計士による監査」も受けている。これによって適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に努力している。		
	31 財務情報の公開	5		財務情報公開の体制整備は平成17年4月1日には終了し、体制整備はできている。学園の特徴は、法改正の変化に迅速に対応できる機動力である。今後ともどんな法改正にも迅速に対応していくと考えている。	「財務情報公開規程」「情報公開マニュアル」によって、秩序整然たる順序に基づいて情報公開に対処している点が特徴として挙げることができる。		
9 法 令 等 の 遵 守	32 関係法令、設置基準等の遵守	5		法令や設置基準の遵守に対する方針は文章化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは、平成17、18年度で完全に整備させた。また、教職員の啓蒙として、法令や設置基準を遵守する教育または研修を、リーダーと実務担当者で実施している。	監事による毎年の監査に際しては、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。	平均評価 5	・ITリテラシー冊子は素晴らしい。 ・法人として法令遵守がしっかりと行われていることは重要であるので今後も守り続けていただきたい。
	33 個人情報保護	5		平成17年4月1日に個人情報保護の体制は完了している。今後は個人情報保護の教職員への啓蒙(=研修制度確立済み)と、その運営体制の整備に力を入れることを考えている。	外部機関の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、毎年個人情報保護管理状況についての検定を受け、ライセンスを更新し、ホームページ上に明記している。		
	34 学校評価	5		職業実践専門課程の申請によりHPの構成を見直すことができ、情報公開のページを分かりやすく変更した。	学校ホームページにて学校情報を公開している。		
	35 教育情報の公開	5		自己評価及び学校関係者評価について討議した結果、平成25年度から学校関係者評価の実施に向けた取組みを行うことと合わせて、自己点検・自己評価は原則として全文公開することが決まり、平成25年度よりHP上で公開を行っている。	学校ホームページに情報を掲示している。		
10 地 域 社 貢 献 貢 献 ・	36 社会貢献・地域貢献	4		海外との国際交流プログラムは研修費用の面で参加できない学生も多いため、国内で学習できる国際性教育もプログラム化している。		平均評価 4.2	・地域代表として大浜地区での活動に参加、協力していただきりとも感謝しております。これからもよろしくおねがいいたします。 ・海外国際交流の研修費が高額すぎる様な。日程も短い(長くするとさらに高額になるのでしょうか) ・ボランティア精神を育む取り組みはぜひ充実していただきたい。
	37 ボランティア活動	4		学生のボランティア活動に関しては、現状学校主導でサポートしている部分が多い。今後、全ての学生が、ボランティア精神を持って、主体的に活動できるような教育プログラムを構築する必要がある。			